



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 134

2021

11.12

“地方創生フォーラム in 山口 コミュニティ・スクールを核とした地方創生” から学ぶ

なぜ、県をあげてコミュニティ・スクールに取組みはじめたのでしょうか？

地方創生フォーラムでの地域連携推進室の所管説明や山口大の松田靖先生の基調講演を聞くと、コミュニティ・スクールの導入には社会的な課題が背景としてあることが見えてきます。

その課題は人口減少・少子高齢化といった人口急減社会といった山口県の課題だけでなく、国家的課題が深刻化するという背景があることがさらに見えてきます。そのために人口減少を克服し、人口・経済・地域社会の課題に一体的に取り組むために、一人一人が主体的な社会をつくりだしていくことが必要ということで平成26年には「まち・ひと・しごと創生法」が施行されたという流れがあることを今回知ることができました。

こうしてみると、山口県は学校の課題という視点ではなく、「直面する困難に立ち向かい、活力に満ち、将来に希望を持って暮らすことができる山口県をつくっていくためには高い志を持って多様な人々と協働しながら主体的に自らの将来や社会を力強く切り拓いていく子どもたちを育てていく」といった視点でコミュニティ・スクールを人口・経済・地域社会の課題に一体的に取り組むための仕組としてとらえていたのではといったことが見えました。

まず、コミュニティ・スクールを考えるにあたって、コミュニティ・スクールが広まっている背景にはこうした日本の社会が抱える課題があるということに目を向ける必要があると考えます。

「人づくりと地域づくり」？

明石市でもコミュニティ・スクールの理念に「いい学校はいいまちにある、いいまちにはいい学校がある、いい学校づくり=いいまちづくり」と掲げ、「学校が活性化

することはまちを活性化させる」、「まちを活性化させることは学校を活性化させる」と学校づくりとまちづくりを一体的に捉えています。山口でも「人づくり」と「地域づくり」を一体的に捉え、子どもたちが、「地域の大人と協働すること、地域の大人とともに学ぶことで地域への思いが高まり、将来の地域の担い手として成長する」と「人づくり」と「地域づくり」が循環していくと考えられているのだと思います。

また、子どもと大人がともに活動することは世代を超えたつながりであり、子どもとの活動をきっかけとして地域住民の交流が生まれるというつながりを生む「持続可能な地域づくりと人づくり」の仕組としてもコミュニティ・スクールを捉えているように思います。

コミュニティ・スクールを推進することにより、

○特別な「もの」があるのではなく、当事者意識や主体性をもった「人」がいる

○地域の課題発見解決等の学習を通じて、自ずと地域への愛着や誇りが育まれる

○子どもたちの変化や成長が、大人たちの喜びや生きがいにつながる

○地域に新たな活力を生み出す土壌を育む

といった「持続可能な地域づくりと人づくり」を山口県が目指されているということが今回の地方創生フォーラムで学ぶことができたのではと思います。

あさぎりウォークの様子がとどきました

あさぎりウォークって？
どんなきっかけで？

昨年、朝霧校区が例年実施してきた「夏祭り」が、新型コロナウイルスの影響で中止になりました。そこで、昨年の12月9日それに代わるイベントについて、まちづくり協議会と児童会のメンバーとで協議する



場が持たれました。その中で、「多世代での交流」「コロナ禍」「朝霧ならではの」というキーワードが出てきました。そのキーワードから、児童会の子どもたちの思いもなせて、あす

あさ会のメンバーが「ウォークラリー」を発案しました。※あすあさ会…朝霧校区まちづくり協議会のよびかけでまちづくりに関心のある住民，サポーターなどが集まり，意見交換をする会（基本的にだれでも参加でき、教職員も参加している）



それから約1年、11月7日（日）に第1回「あさぎりウォーク」が晴天の下、開催されました。6年生のボランティアの元気のよいカウントダウンで、グループごとに出発していきました。グループは、子ども、保護者、地域の方、教職員様々なメンバーが当日ランダムに構成されました。出発時はまだぎこちないグループも、到着時は皆さん笑顔いっぱいゴールしました。1年生のプロジェクト型学習の秋みつけで作った遊びのお店を6年生のボランティアが紹介してくれたり、途中の公園でのクイズは、2年生と6年生が考えてくれたりと子どもたちの学びとのつながりもありました。



ボランティアのスタッフも6年生の児童、保護者、まちづくり協議会のみなさん、スクールガードさん、各自治会の役員さん、コミセンスタッフ、あすあさ会のスタッフ、そして、教職員で総勢67名集まりました。スタートの「いってらっしゃい」ゴールの「おかえりなさい」をみんなで元気いっぱい声をかけている皆さんの姿に、すごくあったかいものを感じました。参加者もボランティアの皆さんもみんな笑顔いっぱいの素敵な一日になりました。様々な立場の方々が、小学校において同じバクトルでその場に集う経験は、私たち教職員にとってもすごく意義のあるものでした。（朝霧小学校より）



あさぎりウォークの報告を読みながらまさしく、子どもたちが、地域の大人と協働しながら、地域の大人とともに学ぶことで、将来の地域の担い手として成長する、「人づくり」と「地域づくり」の循環を見たような気がします。（文責：北本）